



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 青山商事

5

1993年12月23日、ロードサイド紳士服専門店である青山商事は、東京・上野に店舗面積1,000㎡を越える大型紳士服専門店をオープンさせた。店舗が入居するこのビルは、もともと都市型紳士服専門チェーンといわれる「三峰」が、所有していたのを、青山商事が土地、建物ごと100億円弱で買収した<sup>1)</sup>。これは、これまで郊外に店舗を構え、低価格を武器にスーツを販売していた新興勢力のロードサイド紳士服専門店と、都心を中心に店舗展開を行ってきた老舗専門店との、勢力の逆転現象を象徴するかのような買収劇であった。上野店オープンの前年にあたる92年10月に開店し、大成功を納めたドル箱店「東京・銀座店」以降、青山商事の都心部への出店政策は、ここにきて一段と熱を帯びてきた。

10

## 会社の沿革

15

青山商事は「洋服の青山」という店名で、全国で紳士服を中心とした衣料品販売の専門店チェーンを展開している。景気後退が顕著になってきた昨今の経営環境にもかかわらず、青山商事は、ここ数年めざましい成長を遂げており、1990年度には、売上高で紳士服専門店業界のトップ企業となり、91年度には業界初の1,000億円企業となった。これまでの専門店と比較して特徴的なことは、都心部から離れた郊外を中心に、店舗展開を行ってきたことや、3万5千円代のスーツを中心価格に据えた徹底した低価格戦略であった。

20

青山商事が、一番最初に手がけた郊外型店舗は、昭和49年4月にオープンした広島市の西条店であった。会社設立は、それより10年遡った39年5月であり、その当時は、紳士既成服の小売りを中心に、その他食料品、広島県の特産品販売等の事業を行っていた。それを紳士服に一本化し、それまで流通業の定石といわれた出店政策である“駅前立地”を覆す試みをおこない、いわゆるロードサイド店としての第一歩を踏み出した。今でこそロードサイド店

25

---

1) 日経流通新聞 1993年12月21日 P.9

---

このケースは刊行資料を参考にして、慶應義塾大学大学院管理研究科の学生M15中原伸介が、同大学大学院太田康信教授の指導の下で作成したものである。このケースは、同大学院でのクラス討議のため作成したものであり、経営管理上の巧拙を例示するためのものではない。

30